

平成27年度 第4回 緩和ケア勉強会のご報告

今年度の第4回緩和ケア勉強会は、10月15日に開催いたしました。出席人数は46名、うち、院内23名、院外21名でした。

今年度の年間テーマは「症例に学ぶ ～多施設・多職種で関わる緩和ケア～」です。第4回目の今回は「がん治療中のがん患者とその家族を地域で支えるとは」～若年性がん患者とその家族に支援からの学び～というテーマで、デスカンファレンスを行いました。患者は20代の男性で、診断に続く化学放射線治療のための入院中に緩和ケアチームに相談があり、退院時から訪問診療を開始し、それから11ヶ月間、在宅療養をされ、自宅で最期を迎えられました。訪問医ががん治療中から関わり始めることにより、本人やご家族との関係が良好になり、安心して過ごすことができたと感じました。

今回はアンケートでの感想を紹介させていただきます。

アンケート結果報告

- ・在宅医療者が患者・家族の生き方、考え方を共有するために時間をかけてゆっくりと接した・・・というのが病院ではなかなかできないことであるが大切だと思った。日常の継続の中で死を迎えることが本来の姿なのではないかと感じた。
- ・この27歳の若い患者さんと、この病院での主治医、緩和ケアチーム看護師、在宅医、訪問看護師のていねいな関わりがよく伝わってきました。この患者さんと関係者の方々の時間を少し共有できたようで心に残りました。重いけど素晴らしい仕事だな・・・と感じました。
- ・20代の末期がんの患者さんの在宅での関わりはないケースだったので興味を持って聞くことができました。やはり自分の子供を先に看取る親の気持ち、それを支える在宅の先生方は大変だったと思います。たくさんの人たちのサポートで気持ちも和らいだのではないかと思います。
- ・“何をしたい”、“何を実現したい”もあるが、“いつもの生活”を選択されることもある。家族の関わりが支えになる。

勉強会の様子



次回の勉強会：12月17日（木） 18時～19時半

内容：「患者の家に帰りたい」という思いの実現を目指して

～退院調整看護師と訪問看護師の連携 THP による情報共有ができた事例～

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もどしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX：0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp